



おきさちこさんのコラム ナチュラルな暮らしを楽しむ

その 10 傷を乾かさずに治す「湿潤療法」から考えるナチュラルクリーニング

薄着の季節、ちょっと転んでも派手に擦り剥くことがあります。生傷の絶えない男の子は切実です(昨日も……まさに治療中)。

野生の動物は、怪我をしたら舐めて治します。湿潤療法は、「うるおい療法」とも言われるように、傷を乾かさずに治す治療法です。体が本来持っている「自然治癒力」を最大限に活用します。

一昔前は「傷は乾かして治すもの。ジュクジュクした汁は化膿したのだ」と思われ、傷を乾かす薬や、ガーゼでの治療がスタンダードでした。ところが、このジュクジュクした浸出液に、傷を治すために必要な細胞成長因子が豊富に含まれていることがわかりました。

このジュクジュクした汁で傷口を覆いながら治療すると、活発に細胞分裂が起こるので、傷が早く治ります。この汁を乾かさないう、ぼたぼた垂れないよう、上手に吸収させながら治す、しっとりした素材のばんそうこうや、つるりとして貼りつかないシートが市販されています。ガーゼが貼りつく痛み(あれが一番痛い!)もなく、かさぶたができないので、ひきつれや跡も残りません。

消毒も必要なく、むしろ有害とされています。それは生きている細胞にダメージを与えてしまい、細胞成長因子の力を奪ってしまうから。

怪我をしたらず、洗って泥や砂をきれいに取り除き、傷口にワセリンを塗り、乾かないように食品用のラップを貼るだけでも応急処置になります。ラップは蒸れるので汗臭いですが……。でもこの臭いも、泡立てた石けんでやさしく洗えば大丈夫です。ちなみに傷は3日も



すればジュクジュクが減り、皮膚が再生されてきます。

自然治癒力を最大限に引き出して治療するこの湿潤療法。ナチュラルクリーニングと似ていませんか?身近で安全な素材を使って、地球の持つ自浄能力を真似してお掃除するところ……。

そして、「消毒薬が生きている細胞にダメージを与えてしまう」、という考え方も、「毒性の高い洗剤を使うと、皮膚の機能や海の生態系にダメージを与えてしまう」と似ている気がします。

毎日シートの交換の際、「たった1日でここまで回復!?!」と、人体の持つ再生力に驚かされます。「自然治癒力って素晴らしい!」とか言いながら、大喜びで子どもの傷口を眺めている私は、かなり怪しい人らしいです。

細胞成長因子で、シワを取る美容法もあるそうで、わざと皮膚に細かい傷をつけて、新しい皮膚の再生を促すそうです(興味あるけど、痛そう……)。

怪我をしても、親がどーんと構えて「だいじょうぶだよ」って言えると、子どもはのびのび育つ気がします。「ツバつけとけば治る」は、ホントです。どこかの家の子みたいに、のびのびしすぎ!!と言われないようご注意ください(苦笑)。



これまでのナチュラルクリーニングはコチラ

[▶ http://www.shabon.com/column/](http://www.shabon.com/column/)



興 幸子(おきさちこ)さん

大学で天然物化学を専攻し、製薬メーカー、調剤薬局に薬剤師として勤務。安全で気持ちの良い生活法を提案する「ナチュラル家事」の講師として各地で講演中。薬剤師、公益社団法人日本アロマ環境協会認定アロマセラピーアドバイザー、ハウスケーピング協会認定整理収納アドバイザー